

## 奨学生からの手紙—奨学金に寄せて—

千葉県私立高等学校の奨学金制度は昭和48年度に発足して40余年の月日が経過いたしました。その間多くの優秀な奨学生を輩出してきました。現在、社会で活躍されている奨学生から届いた感謝や奨学金への励ましの手紙をここに紹介させていただき、奨学生の皆さんの今後一層の努力を祈念いたしたいと思います。

### 僕にとっての奨学金

W. Y. さん

千葉経済大学附属高等学校  
平成15年度卒業

僕が奨学金の申請をしたのは、公立高校に落ち私立高校に通う事になったからです。公立に比べて3倍の授業料がかかる事、ちょうどその頃母方の祖父が病気の為、同居することになり、もし授業料の支払いが出来ないといけないので母の勧めで申請しました。

僕の母が高校2年生の時、祖母が亡くなり、叔母は大学2年生から奨学金にて某国立大学教育学部を卒業し、母も保育士専門学校にて奨学金を申請した話を聞きました。

僕は大学受験に向け、家庭教師をつけ勉強していましたが、3年生の夏休み前の模擬テストにて点数が良くなり落ち込み、大学進学を断念してしまいました。家庭教師の先生にも模試は難しく当然と説得されたようですが、僕は聞く耳を持たなかったようです。大学は3校受験しましたが、半年勉強していないので無理でした。この時の受験料等結構なお金がかかりましたが、奨学金で受けられました。結局僕は、高校卒業では就職は無理なので専門学校へ進学しました。専門学校でも授業料は大学の2年分は必要で、奨学金と学資保険で賄う事ができました。卒業後、ボイラー一技士等の資格を取得しエンジニアの仕事に就きました。

現在結婚し、2人の親となりましたが、子をもって初めて養っていく大変さがわかりました。今は公立高校の授業料は免除のようですが、いつ制度が変わるかわからないし、まだまだ就職氷河期、学歴社会の日本、大学・専門学校への進学はもっと必要になるのではないのでしょうか。収入が少なく学資保険にも入れない方もいると思います。でも子どもの責任ではありません。お金がないので学校へ行けないという事がないように、平等に学ぶことができるように、これからも奨学金制度を存続していただきたいと思います。

奨学金は  
貸付制度で  
す。返還金  
は後輩への  
貸付金にな  
りますので  
必ず返  
還しましよ  
う。

### 夢を実現するために

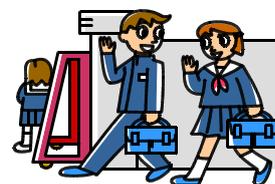
I. K. さん

千葉英和高等学校  
平成17年度卒業

現在多くの学生が奨学金を受給しながら学んでいます。私もその一人で、千葉県私立中学高等学校協会の奨学金制度を利用していました。私は、勉強はもちろんのこと、特に部活動に打ち込みたいと意気込んで千葉英和高校に入学しました。吹奏楽部で先生や仲間と共に、より良い演奏を目指してコンクールに挑戦したり、地域の依頼演奏で機会をいただくなど、充実した日々を過ごす中で、「卒業後も音楽を続けたい」「将来は楽器で仕事がしたい」と強く思うようになりました。そして高校3年生の冬、第一志望の東京音楽大学の受験に挑戦し、合格することができました。楽器の練習と勉強の両立は簡単なことではなく何度も挫折しましたが、経済的な心配をすることなく、何事にも全力で取り組むことができたのは、千葉英和高校に通うための奨学金があったからこそこのことでした。

高校卒業後は大学で4年間サクソフォーンという楽器や音楽全般について広く学び、更に専門学校で2年間演奏者としての実践的な事を学んだ後、現在は埼玉県警察音楽隊で臨時的任用職員のサクソフォーン奏者として勤務しています。大好きな楽器で仕事出来るからということは何論ですが、私の演奏が県民の皆様の安心・安全な生活へとつながるこの仕事に日々やりがいと喜びを感じています。振り返ってみると、何事にも諦めずに取り組んだ高校3年間があったからこそ今の自分があるように思います。

そして社会人となって毎月奨学金を返済している今、奨学金制度の重要性について身をもって感じています。私の返済した奨学金が再び、意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で進学や修学が困難な学生への奨学金となっているからです。一人でも多くの学生が奨学金によって夢に近づく事が出来るように、これからも責任をもって奨学金を返済していきたいと思います。



## 実り多い高校生活を送るために

K. T. さん

千葉明德高等学校  
平成17年度卒業

私は平成14年度から平成17年度までの高校3年間、貴会の奨学金を受けさせていただきました。この3年間、貴会の奨学生としての名に恥じぬよう、乃ばせながら学業・学校行事にと全力を尽くしてまいりました。振り返ってみると、私立学校という施設・設備の充実した環境の中で、多くの人と出会い、様々な体験をさせて頂いたり、自分なりに有意義な実り多い高校生活を過ごすことが出来た3年間でした。

今現在私は高校3年間の様々な経験から抱いた夢である、美容関係のお仕事をさせて頂いております。こうして今の自分が希望する仕事で社会貢献できているのも、貴会の奨学金により充実した高校生活を送れたからこそだと強く感じております。

近年、経済不況の影響に伴い、奨学金を希望する生徒が年々増加しているとニュースなどでよく耳にしています。生徒が経済的な面で心配することなく、安心して学べるようにするためにも奨学金制度はなくてはならないものであり、今後、奨学金制度の充実を図ることが大切であると感じております。貴会奨学金の貸与が今年度をもって終了すると伺い、非常に残念ですが、これまで長年に渡り次の世代を担う高校生たちのために行ってきた貴会の奨学金制度には大変感謝しております。これから先の人生も私たち奨学生を支えて下さった貴会の皆様への御恩と感謝を忘れず、貴会の奨学金を受けた者として恥ずかしくないよう、より一層精進して参りたいと思います。3年間変わらず支えて下さった貴会の皆様、そして支給業務に携わって下さった全ての皆様に、これまでの奨学生を代表しまして心よりお礼申し上げます。「本当にありがとうございました。」



## 奨学金の必要性について

I. S. さん

千葉学芸高等学校  
平成17年度卒業

私は平成18年3月に、千葉学芸高校を無事卒業することができました。しかし、奨学金制度が無かったならば、高校を無事卒業することができず、つまらない人生を送っていたと思います。私がどうして公立高校に行かず、千葉学芸高校に入学したのかには、二つの理由があります。一つ目の理由は、あまり勉強が好きではなく、努力を怠ったため自信がなく、何処を受験しても無理だと思っていたことです。千葉学芸高校は勉強で分からないところを丁寧に指導してくれる事は当然ですが、それ以外の教育にも力を入れているところに、魅力を感じ、自分にあっていると思い志願しました。二つ目の理由は、高校で野球をしたかったからです。今の私があるのは、千葉学芸高校で3年間野球を続けてきたからです。野球を通して色々なことを学びました。千葉学芸高校のすべての先生に叱咤激励をしていただき、色々なことを学び私は成長しました。このことは私の宝であり、私の誇りであると思っています。私が言いたいことは、奨学金制度がなければ、私の宝物も誇りも思い出もすべてがなかったと思います。奨学金制度が無くなるようなことは、絶対にあってはいけなく、また避けなけれ

ばなりません。奨学金を返済しない人たちが増えてくると聞きますが、そんな人たちも奨学金のお陰で今があり、高校生活を送る経験ができたはずで。子供たちの未来のためにもしっかりと返済することを守らなくてはなりません。

私は、昨年結婚し、現在は生後半年の息子がおります。奨学金制度がなかったら、今の職場、家族、思い出を掴むことができなかったと思います。奨学金制度があることに心から感謝しています。社会人になり、新たに多くのことを学びましたが、高校時代の友達や先生との交流から学んだ集団行動や挨拶などが一番大切だと思います。学校は、勉強以外にも多くのことが学べる大切な時間を過ごすことが出来る場所です。そのためにも奨学金制度はなくてはならない大切な制度です。



## 夢に繋ぐために

H. Y. さん

植草学園大学附属高等学校  
平成20年度卒業

私の夢は保育士です。子どもの頃からずっと目指していた夢を叶えるべく奨学金をお借りし、高校生活を終え、教育分野の大学に進学をする事ができました。大学に進学し、最も励んだ事は、大学生生活4年間で5回にも渡る教育実習です。教育実習では、大学の講義では決して学ぶことのできない保育の技術と子ども達との関わりを先生方の姿から沢山学ばせて頂きました。またそれと共に自分の保育士の夢への決意を固めた大切な時間でもありました。実習中は、睡眠もあまり取れない中でやるべき課題も多い上に、自分自身の反省や失敗を日々感じ挫折しそうになった事もあります。しかし、どんなに挫折しそうになっても、子ども達と沢山関わり共感し、子どもとの時間を楽しむ事で、自分の夢への諦めきれない熱い気持ちと決意が込み上げて来ました。失敗続きの教育実習でしたが、失敗を積み重ねたからこそ多くの事を吸収し、反省を次に繋げる努力も、自身の夢への思いを改める事もでき、大きく成長をする事が出来たと実感しています。5回にも渡る教育実習を終え、就職活動に励んでいる今の私の目標は、どんな時も笑顔をやさず、子どもの気持ちに寄り添える温かい保育士になる事です。実習中、多くのご指導を下さった先生方や、笑顔で明るく迎えてくれた子ども達、多忙な中、激励して下さい下さった大学の先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。そして高校時代に、高校生活を送るにあたって奨学金をお借りしたからこそ、自身の夢や目標を持ち続け、大学に進学できた感謝の念も忘れません。

さらに、大学生生活4年間での経験や学び得たもの全てを糧として、これからも目標を持ち続け、頑張っていきたいと考えています。

返還についての問い合わせ先

〒260-8514

千葉市中央区千葉港4番3号(私学会館3階)

社団法人 千葉県私立中学高等学校協会

私立高等学校生徒奨学金運営委員会

TEL: 043-245-7651

FAX: 043-248-4021

http://chibashigaku.jp/

E-mail: chiba.shigaku@nifty.com